


「義仲・巴」出典付年表

※北陸の合戦については、平家物語諸本で異同が多いため、便宜的に『源平盛衰記』による。
 ※義仲・巴の年齢は、数え年とする。義仲の年齢は便宜的に『吾妻鏡』寿永3年正月20日条による。巴の年齢は便宜的に『源平盛衰記』による。

	西暦	和暦	月日	出来事	義仲年齢	巴年齢	出典				
							日記・文書等	『吾妻鏡』 ※別添1参照	平家物語諸本 ※別添1参照		
							延慶本	覚一本	源平盛衰記		
1	1154	久寿元年	-	義仲、誕生。 *『吾妻鏡』治承4年(1180)9/7条によれば1153生まれ。 鎌形八幡宮/木曾義仲産湯の清水 〈所在地〉 埼玉県嵐山町	1			『吾妻鏡』 寿永3年 1/20条	巻6-7	巻6廻文	巻26 木曾謀反
2	1155	久寿2年	8/16	義仲の父源義賢、武蔵国大蔵館で源義平に討たれる。 *源平盛衰記は2月の出来事とする。 大蔵神社/大蔵館跡 〈所在地〉 埼玉県嵐山町	2		『百練抄』 8/29条 ※別添1参照 『合記』 8/27条 ※別添1参照	『吾妻鏡』 治承4年 9/7条	巻6-7	巻6廻文	巻26 木曾謀反
3	1156	保元元年	7/11	保元の乱。 保元の乱(ほうげんのらん)：後白河天皇方が崇徳上皇方に勝利した。	3		『兵範記』 ※別添1参照				
4	1157	保元2年	-	巴、誕生。寿永3年(1184)に28歳。 *延慶本は巴(『頼絵』)が寿永3年に30歳とする(1155年生まれ)。 巴淵/巴の名にちなんで名付けられた 〈所在地〉 長野県木曾町	4	1			巻9-9		巻35巴 関東下向
5	1159	平治元年	12月	平治の乱。 平治の乱(へいじのらん)：後白河上皇の近臣である藤原信頼と信西(しんぜい)が対立し、やがて源義朝と平清盛が全面対立した。平清盛が勝利し、平氏は朝廷社会で権力を維持する最大の武士団になった。	6	3	『百練抄』				
6	1160	永暦元年	9月	源頼朝、伊豆国に流される。	7	4	『清徳眼抄』 ※別添1参照				
7	1166	仁安元年	-	義仲、元服。 元服(げんぷく)：男子が成人したことを示すための儀式。 石清水八幡宮/義仲が元服したと伝わる地 〈所在地〉 京都府八幡市	13	10			巻6-7	巻6廻文	
8		-	-	義仲、京へたびたび忍んで上洛。六波羅で平氏の様子を伺う。 六波羅(ろくはら)：現在の京都市東山区松原通り付近の地名。平安時代末期には平清盛はじめ平氏一門の邸宅が並び、平氏政権の中心地だった。					巻6-7	巻6廻文	巻26 木曾謀反
9	1177	治承元年 (改元は8/4)	6月	鹿ヶ谷事件。 鹿ヶ谷事件(しかがたにじけん)：後白河上皇の近臣による平氏打倒の陰謀が発覚。	24	21	『玉葉』 ※別添1参照		巻2-7	巻2 西光被斬	巻5成親 以下被召捕
10	1179	治承3年	11/15	治承三年政変。平清盛、後白河法皇を幽閉して院政を停止する。	26	23	『玉葉』		巻3-26	巻3 法印問答	巻12一院 鳥羽籠居
11	1180	治承4年	4/9	以仁王、平家追討の令旨を諸国の源氏に発する。 以仁王(もちひとおう)：後白河天皇の皇子。「以仁王の令旨」を出して源氏に平氏打倒の挙兵を促した。 令旨(りょうじ)：皇太子と三后の命令を記した。	27	24		『吾妻鏡』	巻4-8	巻4 源氏揃	巻13 高倉宮 廻宣
12			5/26	以仁王、源頼政ら、宇治川合戦で敗れる。義仲の兄仲家ら敗死。			『玉葉』 『百練抄』	『吾妻鏡』	巻4-21	巻4 宮御最期	巻15 宮中流矢
13			-	以仁王の皇子を、王の御乳人讃岐前司重秀が北国に下らせた。義仲はもてなし、越中国宮崎に御所を建てた。皇子は元服をし、木曾宮と称した。 木曾宮：北陸宮。以仁王の王子。 北陸宮御墳墓/宮崎城跡 〈所在地〉 富山県朝日町					巻4-24	巻4通乗 之沙汰	巻15 宮御子達
14			6月	平清盛、都を福原へ移す。			『玉葉』		巻4-30	巻5都遷	巻17福原京
15			8/17	源頼朝挙兵。伊豆国目代山木兼隆を討つ。 伊豆国(いずのくに)：現在の静岡県。 目代(めくだい)：国守の代理人。国守の代わりに任国に赴いて執務する私的な代官。			『山槐記』 ※別添1参照	『吾妻鏡』	巻4-35	巻5早馬	巻20 八枚夜討

	西暦	和暦	月日	出来事	義仲年齢	巴年齢	出典				
							日記・文書等	『吾妻鏡』	平家物語諸本		
									延慶本	覚一本	源平盛衰記
16	1180	治承4年	9/7	<p>義仲、信濃で挙兵。</p> <p>*『吾妻鏡』は信濃国市原において平氏方の笠原頼直を討つとする。</p> <p>旗竿八幡宮/木曾義仲館跡 行家から以仁王の命令を受け取った義仲が旗竿げた地と伝わる 〈所在地〉長野県木曾町</p> 	27	24		『吾妻鏡』	巻6-7	巻6廻文	巻26 木曾謀叛
			10/13	義仲、信濃を出て上野に入る。				『吾妻鏡』			
			11/13	<p>義仲、信濃の藤原資弘に安堵の下文を發給する。</p> <p>安堵(あんど): 権力者が下位者の土地所有権を承認すること。</p>			市河文書〔平安遺文〕8巻3937号 ※別添1参照				
			12/24	義仲、上野から信濃に入る。				『吾妻鏡』			
			12/28	平重衡、東大寺・興福寺を焼く。			『玉葉』				
21	1181	養和元年 (改元は7/14)	1月	<p>中原兼遠、義仲を搦め取るとの起請文を書く。</p> <p>起請文(きしょうもん): 神仏に誓約する言葉を書き表した文書。</p>	28	25					巻26 兼遠起請
閏2/4			平清盛死去。				『玉葉』 『百練抄』	『吾妻鏡』	巻6-13	巻6 入道死去	巻26平家 可亡夢
4/15			義仲、信濃の笠原行連に安堵の下文を發給する。					蓬左文庫所蔵金沢文庫本『吾妻鏡』卷十紙背文書〔鎌倉遺文〕14巻10836号 ※別添1参照			
6/13 14			<p>義仲、越後より信濃に攻め入った城資職を迎え撃ち、勝利する。①横田河原の戦い✕</p> <p>*『吾妻鏡』は寿永元年10/9義仲が城承用と信濃筑摩河にて戦い破るとする。 延慶本は城長茂と戦ったとし、覚一本は寿永元年9/9城長茂と戦ったとする。</p>				『古記』6/27条 ※別添1参照 『玉葉』7/1条	『吾妻鏡』	巻6-26	巻6横田 河原合戦	巻27信濃 横田原軍
6月頃			義仲、越後国府に入る。のち信濃に戻る。						巻6-26		巻27信濃 横田原軍
-			北陸道の国々、義仲になびく。						巻6-26		巻27周武王 誅討王
8/15			平経正、義仲を討つため北陸道に進発。				『古記』	『吾妻鏡』			
8/16			<p>平通盛、義仲を討つため北陸道に赴く。</p> <p>平通盛(たいらのみちもり): 平教盛(平清盛の弟)の嫡男。</p>				『古記』	『吾妻鏡』	巻6-28		巻27 資永中風
9/4			義仲軍の先鋒根井太郎、越前に入り、平通盛の軍と水津で戦う。					『吾妻鏡』			
9/6			平通盛軍、敗れ退きて敦賀城にある。				『古記』9/9・10条 『玉葉』9/10条 『百練抄』		巻6-28		巻27 資永中風
9/11			<p>平教経、行盛を副将軍として、北陸道に下向する。</p> <p>平教経: 平教盛(平清盛の弟)の子。 平行盛: 平清盛の孫。</p>				『玉葉』				
9/27			平行盛・忠度、今日北陸に赴く。				『玉葉』 『百練抄』 9/28条		巻6-28		巻27 資永中風
10/3			<p>平維盛、北陸道を討つため近江へ。</p> <p>平維盛: 平清盛の嫡男(平重盛)の嫡男。</p>				『玉葉』 10/4条				
11/20			北陸道追討使平通盛・行盛が帰京。平経正は若狹に留まる。				『古記』	『吾妻鏡』 11/21条			
11/24			<p>義仲、能登の得田章通に地頭職補任の下文を發給する。</p> <p>補任: 下位者に官位・役職などを与えること。</p>				雑録追加(『加能史料 平安IV』536頁)※別添1参照				
36	1182	寿永元年 (改元は5/27)	2月頃	義仲、越中の藤原定直に安堵の下文を發給する。	29	26	尊経閣文庫所蔵文書〔鎌倉遺文〕12-8775)※別添1参照				
37	1183	寿永2年	3月頃	頼朝、義仲と不和。義仲、子の義高を頼朝のもとに送り、人質とする。頼朝、義仲を許す。	30	27			巻7-7	巻7 清水冠者	巻28頼朝 義仲中患
4/17			<p>平維盛以下、北陸道の征討に下向する。</p> <p>*平家物語諸本は義仲を討つためとする。</p>				『百練抄』 『玉葉』 4/23条	巻7-5・8	巻7 北国下向	巻28燧城 源平取陣	
4/17頃			<p>義仲、平氏軍10万を迎え撃つため、林六郎光明らを燧城に遣わす。</p> <p>林六郎光明: 加賀の武将。</p>					巻7-8	巻7 火打合戦	巻28燧城 源平取陣	
4/26			官軍、越前に攻め入る。				『玉葉』 5/1条				
4/27			官軍、越前に入り、源氏の城2箇所を攻め落とす。				『百練抄』				

	西暦	和暦	月日	出来事	義仲年齢	巴年齢	出典				
							日記・文書等	『吾妻鏡』	平家物語諸本		
								延慶本	寛一本	源平盛衰記	
42	1183	寿永2年	4月頃	源氏方、 齊明 の裏切りにより、敗れる。 ② 燧ヶ城の戦い ✕ 齊明(さいめい):平泉寺の長史。	30	27			巻7-9	巻7 火打合戦	巻28源氏 落燧城
43			4月頃	齊明を先頭とする平家の軍勢が、源氏の越前国河上城を攻め落とす。							巻28源氏 落燧城
44			4月頃	源氏方の今城寺太郎光平、 斎藤実盛 と戦い首を取られる。 斎藤実盛:越前出身。畠山重能から託され、父を失った義仲を一時保護し、信濃へ送った。							巻28源氏 落燧城
45			5/3	官軍、加賀で合戦。双方に多くの死傷者を出す。			『玉葉』 5/12条				巻28北国 所々合戦
46			5/9	源氏軍、般若野において、平氏軍と合戦。 未刻 まで戦い、平氏軍は加賀に退く。③ 般若野の戦い ✕ 未刻(ひつじのこく):13時~15時。							巻29 般若野軍
47			5/9	平氏軍、義仲軍追討のために、兵を二手に分けて越中に入る。							巻29平家 礪波志雄 二手
48			5/9	義仲軍、六動寺の 国府 に着く。 国府:国司が政府を執る施設(国衙)。その所在地。							巻29三箇 馬場願書
49			5/11	義仲、般若野御河端にて軍談義をする。							巻29俱梨 伽羅山
50			5/11	義仲軍、平氏の動静を聞き、態勢を整える。							巻29俱梨 伽羅山
51			5/11	義仲、砺波山の東に陣をおき、願文を新八幡に奉りて、戦勝祈る。 					巻7-11	巻7 願書	巻29新 八幡願書
				壇生護国八幡宮 〈所在地〉富山県小矢部市							
52			5/11	義仲、夜に乗じて、平氏を攻める。平氏は敗走。④ 俱利伽羅峠の戦い ✕ 			『玉葉』 5/16条 『百練抄』		巻7-11	巻7俱梨 迦羅落	巻29 礪波山 合戦
				源平俱利伽羅合戦図屏風/俱利伽羅神社蔵 〈所在地〉石川県津幡町							
53			5/12	義仲、 金剣宮 に鞍置馬を送る。 金剣宮(きんけんぐう):石川県白山市鶴来日詰町にある神社。 鞍置馬:鞍をつけた馬。							巻29 礪波山 合戦
54			5月	葵、砺波山の合戦で討たれる。							巻35巴 関東下向
55			5月	源氏、安宅の湊を落ちて、大野庄に陣を取り、平氏は林・富樫の館に入って休息する。							巻28北国 所々合戦
56			5月	義仲、今井兼平の軍勢を越中国婦負御服山に陣を取らせる。							巻28北国 所々合戦
57			6/1	北陸の官軍が悉く敗れる。			『玉葉』 6/4条		巻7-12		巻29 平家落上 所々軍
58			6/1	源氏軍5万騎を結集し、安宅渡に押し寄せる。開戦。平家軍退却。⑤ 安宅の戦い ✕							巻29 平家落上 所々軍
59			6月	義仲、高橋長綱を討った 入善小太郎安家 と 南保二郎家隆 を称える。 入善小太郎安家:越中の豪族宮崎太郎の嫡男。 南保二郎家隆:宮崎太郎の弟。							巻29 俣野五郎 并長綱亡
60			6月	斎藤実盛、手塚光盛に討たれる。 					巻7-13	巻7実盛	巻30 真盛被討
				首洗い池/手塚光盛が討ち取った斎藤実盛の首を洗ったと伝わる池 〈所在地〉石川県加賀市							
61			6月	源平、篠原で合戦。平知度を討つなど、源氏方が勝利。⑥ 篠原の戦い ✕					巻7-12	巻7 篠原合戦	巻30 平氏侍 共亡
62			6/5	官軍が敗れたことについて、院の御所で会議が行われる。			『玉葉』		巻7-14		巻30 平氏侍 共亡
63			6/6	後白河、藤原経宗・兼実以下の5人に、義仲追討について諮問を行う。			『吉記』 『玉葉』 『百練抄』				

	西暦	和暦	月日	出来事	義仲年齢	巴年齢	出典					
							日記・文書等	『吾妻鏡』	平家物語諸本			
									延慶本	覚一本	源平盛衰記	
64	1183	寿永2年	6/13以前	源重貞、単騎で六波羅に来て、義仲の兵が近江に入ると告げ、京が騒然となる。	30	27	『吉記』		巻7-20		巻30平家延暦寺願書	
65			6/29以前	比叡山で衆徒が相議し、源平の和平なくば「一山可同源氏」を決定。義仲が近江に入ったという風聞がある。			『吉記』6/29条		巻7-18			
66			7/8	朝廷、義仲の軍が近江に入ったとの知らせにより、警固を命じる。			『吉記』 『百練抄』				巻30平家自宇治勢多下	
67			7/10以前	源氏等、勢多につく。			『吉記』7/10条				巻30平家延暦寺願書	
68			7月	義仲、今城に着く。							巻30木曾山門牌状	
69			7月	義仲、蒲生に陣を取る。百濟寺に兵糧を乞い、御油料として押立五郷を寄進した。							巻30木曾山門牌状	
70			7/22以前	義仲等、東坂本に着き、比叡山に登る。			『吉記』7/22条 『玉葉』7/22条 『百練抄』7/22条		巻7-20	巻7 主上都落	巻31木曾登山 巻31勢多軍	
71			7/25	平家都落ち。			『吉記』 『玉葉』 『百練抄』		巻7-24	巻7 維盛都落	巻31平家都落 巻48女院六道	
72			7/25	義仲は勢多、源行家は木幡山にあり。 <small>源行家(みなもとのゆきいえ)：源為義の子。初めの名乗りを義盛(よしもり)という。新宮十郎、新宮行家とも。以仁王の挙兵に伴い、諸国の源氏に以仁王の令旨を伝え歩き、平家打倒の決起を促した。</small>			『玉葉』					
73			7/28	義仲・行家、入京。蓮華王院御所にて後白河と対面。平氏追討の宣旨を下される。			『吉記』 『玉葉』 『百練抄』		巻7-35	巻8山門御幸	巻32法皇自天台山還御	
74			7/30	公卿らが院御所で、頼朝・義仲・行家等の勸賞、関東北陸荘園及び京中に狼藉制止の事を議す。			『吉記』 『玉葉』				巻32法皇自天台山還御	
75			7月	行家は法住寺の南殿の萱の御所、義仲は大膳大夫信業の六条西洞院の邸宅に宿した。							巻32法皇自天台山還御	
76			7/30	義仲等、京中守護を分担する。			『吉記』		巻7-37		巻32四宮即位	
77			8/10	義仲、任左馬頭兼越後守、叙従五位下。源行家、任備後守、叙従五位下。			『百練抄』 『玉葉』 8/11条	『吾妻鏡』 寿永3年 1/20条	巻8-4	巻8名虎	巻32義仲行家受領	
78			8/12	行家、義仲との勸賞の差に怒る。			『玉葉』					
79			8/14	義仲、高階泰経を通じて後白河に、故以仁王の子を帝位につけるよう奏す。後白河、法印俊堯を遣して、継体は守文を先とすべき旨を伝える。 <small>高階泰経(たかしなのやすつね)：公卿。後白河法皇の側近。 俊堯(しゅんぎょう)：義仲に擁立されて、天台座主になる人物。</small>			『玉葉』 8/18・20条		巻8-2		巻32四宮御位	
80			8/15	義仲、東大寺関係者に兵糧徴収停止の書状を發する。			東大寺文書 3-1-12 ※別添1参照					
81			8/16	義仲、任伊予守。源行家、任備前守。			『百練抄』	『吾妻鏡』 寿永3年 1/20条	巻8-4	巻8名虎	巻32義仲行家受領	
82			8/18	義仲、立王の人選に不満。			『玉葉』 『百練抄』					
83			8/18	平家没官領など、源氏に分与。					巻8-9		巻32還俗人即位例	
84			8/20	後鳥羽天皇踐祚。三種の神器は無し。 <small>踐祚(せんそ)：天皇の地位を受け継ぐこと。</small>			『玉葉』 『百練抄』		巻8-9		巻32還俗人即位例	
85			8月頃	義仲、紀伊の尾藤知宣に安堵の下文を發給する。 <small>下文(くだしふみ)：上意下達を目的として平安時代中期以後に上位の機関から下位の機関もしくは個人にあてて出された命令文書のこと。</small>				『吾妻鏡』 寿永3年 2/21条				
86			9/3	義仲、北陸・山陰両道を押領との風聞。			『玉葉』					
87			9/5	義仲、院御領已下をすべて押領との風聞。			『玉葉』					
88			9/5頃	京の貴賤、兵士の狼藉に苦しみ、頼朝の上洛を期待している。			『玉葉』 9/5条					
89			9/10	義仲、大和国在庁官人大名らに対し、興福寺・東大寺両寺領における兵糧米徴集をはじめとする狼藉の停止を命ずる下文を發給する。			東大寺 兼師院文書 (兼-1-166) ※別添1参照					
90			9/19	後白河、義仲に平氏追討を命じる。			『玉葉』 9/21条					

	西暦	和暦	月日	出来事	義仲年齢	巴年齢	出典				
							日記・文書等	『吾妻鏡』	平家物語諸本		
									延慶本	覚一本	源平盛衰記
91	1183	寿永2年	9/20	義仲、平氏追討のため西国へ向かう。義仲が急に京中からいなくなり騒動になる。	30	27	〔玉葉〕 9/20・21条 〔百練抄〕		巻9-19		
92			9月頃	義仲、 猫間中納言光隆 を饗応する。 <small>猫間中納言光隆：藤原光隆。屋敷があった地名から、壬生・猫間を号しており、「猫間中納言」と称された。</small>					巻8-18	巻8猫間	巻33光隆 卿向木曾 許
93			9月頃	義仲、初めて院御所に車で参り、京中の笑い者になる。					巻8-18	巻8猫間	巻33木曾 院参頭
94			9月頃	義仲、矢田義清・ 海野行広 を山陽道に遣わす。源氏と平氏、水島と屋島で対峙する。 <small>海野行広（うんのゆきひろ）：信州・小県の有力武士。義仲の家臣。水島の合戦で討死。息子の幸氏は義高に付き添って鎌倉に赴いている。</small>					巻8-19	巻8 水島合戦	巻33 水島軍
95			9/25 以前	頼朝、僧文覚を通じて、義仲等の追討懈怠や京中狼藉について院に申し入れ。			〔玉葉〕 9/25条				
96			10/6	頼朝、使を遣して、義仲を討つ用意があることを伝える。			〔玉葉〕 10/8条				
97			10/9	前 兵衛佐源頼朝 を本位に復す。 <small>兵衛佐（ひょうえのすけ）：兵衛府の次官。</small>			〔玉葉〕 〔百練抄〕				
98			10/9 以前	義仲、播磨に入る。			〔玉葉〕 10/9条		巻8-20		
99			10/14	後白河、平氏が侵奪していた東海道、東山道の諸国の貢税、神社仏事王臣家領荘園等を本主に還付する宣旨（寿永二年十月宣旨）を、頼朝に下す。 <small>宣旨（せんじ）：天皇・太政官の命令を伝達する文書の形式名。 *延慶本は11月9日付の文書載せる。</small>			〔百練抄〕		巻8-21		
100			10/20	義仲、石見の某に 押領使 補任の下文を発給する。 <small>押領使（おうりょうし）：国衙の警察・軍事的役職。</small>			毛利家文庫 遠用物 中世366(2) *別添1参照				
101			10/23	義仲、後白河より上野国、信濃国を賜る。			〔玉葉〕				
102			10/26	頼朝、11月1日頃入京との風聞。義仲、26もしくは28日に播磨を出て、翌月4・5日頃入洛し、頼朝と雌雄を決すとの風聞がある。			〔玉葉〕 10/28条				
103			閏10/1	義仲軍、備中水島の戦いで平氏軍に敗れる。⑦ 水島の戦い その後、義仲、妹尾兼康に勝利する。			〔百練抄〕	『吾妻鏡』 元暦元 2/20条	巻8-19 巻8-20	巻8 水島合戦 巻8 瀬尾最期	巻33水島軍 巻33兼康 板蔵城戦
104			閏10/5	頼朝、鎌倉を出るも上洛を停止し、弟義経を遣わす。			〔玉葉〕 11/2条				
105			閏10/13	寿永二年十月宣旨に、北陸道入らず。義仲を恐れたため。			〔玉葉〕				
106			閏10/15	義仲、後白河の意に背き入京。その勢、甚だ少なし。			〔玉葉〕			巻8空山	巻33行家 依謀反木 曾上洛
107			閏10/16	義仲、法皇に、頼朝が遣した軍勢の入京を拒むことを請う。			〔玉葉〕 閏10/16・17条				
108			閏10/19	義仲、後白河以下を奉じて、北陸へ向かうとの風聞あり。			〔玉葉〕				
109			閏10/20	義仲のもとに後白河の使者静賢が来る。義仲、十月宣旨のことにつき遺恨を申す。義仲、頼朝軍を防ぐため、東国に赴くという。義仲が後白河を連れ去ろうとするのは事実無根である旨を、静賢に伝える。			〔玉葉〕				
110			閏10/20	行家、密かに委細（源氏一族が義仲宅にて会合した際、後白河を連れ去ろうとする話がでたことなど）を後白河に伝える。義仲が同日語った内容には偽りがあるのではないか。			〔玉葉〕				
111			閏10/20	平氏優勢の風聞。			〔玉葉〕				
112			閏10/21	義仲、頼朝追討の院宣を請うも許されず。			〔玉葉〕				
113			閏10/21 以前	平氏、備前まで来る。美作以西は平氏になびく。ほとんど播磨に及ぶ。			〔玉葉〕 閏10/21条				
114			閏10/22 以前	頼朝の使者伊勢に来る。			〔玉葉〕 閏10/22条				

	西暦	和暦	月日	出来事	義仲年齢	巴年齢	出典					
							日記・文書等	『吾妻鏡』	平家物語諸本			
									延慶本	覚一本	源平盛衰記	
115	1183	寿永2年	閏10/22以前	義仲、伊勢に郎従らを派遣する。	30	27	〔玉葉〕 閏10/22条					
116			閏10/22	義仲、参院。重ねて行家の奏聞が無実であることを奏す。			〔玉葉〕 閏10/22・23条					
117			閏10/26	後白河、義仲に平氏討伐を命じる。 義仲、興福寺僧徒に頼朝を討つよう命じたが、僧徒は聞かず。 興福寺：奈良県奈良市登大路町にある寺院。南都六宗の一つ。			〔玉葉〕		卷8-21			
118			閏10/27	義仲と行家、不和。			〔玉葉〕					
119			11月頃	義仲の兵ら、都にて狼藉を働く。								卷33木曾 洛中狼藉
120			11/4以前	頼朝の代官が不破関に着く。			〔玉葉〕					
121			11/7	義仲、院中警衛に候せず。			〔玉葉〕					
122			11/8	行家、平氏を討つため京を発つ。			〔吉記〕 〔玉葉〕		卷8-21	卷8室山	卷33室山 合戦	
123			11/10	後白河、法印澄憲を義仲に遣し、頼朝の弟義経等の入京を認めないことを伝える。 澄憲(ちょうけん)：父は藤原通憲。蓮行房・安居院法印とも号する。娘に勅撰歌人の八条院高倉がいる。			〔玉葉〕					
124			11/16	後白河、法住寺南殿に渡る。兵を集める。			〔吉記〕11/17条 〔玉葉〕11/17条					卷34法住寺 城郭合戦
125			11/17	後白河、使者を義仲のもとに遣して、京都退去を命じる。			〔吉記〕11/18条 〔玉葉〕11/18条					
126			11/18	後鳥羽天皇、密かに法住寺殿に渡る。仁和寺の守覚、天台座主の明雲、法住寺殿に。 後鳥羽(ごとうば)天皇：後白河法皇の孫 守覚：守覚法親王(しゅかくほっしんのう)：父は後白河法皇、真言宗仁和寺門跡。			〔吉記〕 〔百練抄〕		卷8-23			
127			11/19	義仲、後白河の御所法住寺殿を襲撃し、火を放つ。合戦に勝利する。⑧法住寺合戦			〔吉記〕 〔玉葉〕		卷8-25	卷8鼓判官 法住寺合戦	卷34法住寺 城郭合戦	
128			11/20	義仲、源光長以下百余人の首を五条河原に梟す。 源光長(みなもののみつなが)：美濃源氏の武将。義仲とともに入京したが、法住寺合戦では御所の防衛に当たった。			〔吉記〕11/21条 〔百練抄〕		卷8-26	卷8法住寺 合戦	卷34明雲 八条宮 人々被討	
129			11/20	松殿師家が内大臣に任じられ、摂政藤氏長者となる。 松殿師家(まつどのもろいえ)：松殿基房(藤原基房)の子。			〔玉葉〕11/22条 〔百練抄〕 11/21条			卷8法住寺 合戦		
130			11/21	義仲、今後世間のことは基房と申し合やすとの風聞。 松殿基房(まつどのもとふさ)：藤原忠通の子。			〔玉葉〕					
131			11/28	義仲、公卿以下49人を解官。			〔吉記〕 〔玉葉〕11/29条 〔百練抄〕		卷8-30	卷8法住寺 合戦		
132			11月頃?	義仲、平宗盛に書を送り、和親を提案する(『玉葉』)。平氏は承引せず(『吉記』)。 平宗盛：清盛の子。			〔玉葉〕 12/2・7条 〔吉記〕12/5条		卷8-34	卷8法住寺 合戦	卷34 頼朝遣 山門牌状	
133			12/1頃	義仲、院御厩別当に就く。 院御厩別当(いんのみまやのべつとう)：院庁の馬や牧を管理する長官。			〔吉記〕 12/1条		卷8-28 卷8-37	卷8法住寺 合戦	卷34 木曾内裏 守護	
134			12/2	義仲、平氏の所領80余所を総領。さらに1所を得て、86箇所を領す。			〔吉記〕 〔玉葉〕12/3条					卷34 木曾内裏 守護
135			12/3	義仲、参院し後白河に頼朝軍追討の旨を伝える。義仲、後白河の警固を厳しくする。			〔玉葉〕					卷34 木曾内裏 守護
136			12/5	義仲、後白河より平家領を賜る。			〔吉記〕					
137			12/7	義仲、未たる10日に後白河を奉じて、平氏を討つため八幡辺に向かう計画を立てている。			〔玉葉〕 12/7・9条 〔吉記〕12/8条					
138			12/10	義仲、丹波国を知行。 丹波国(たんぱのくに)：現在の京都府中部、兵庫県北東部、大阪府北部。 *覚一本は丹波国とする。源平盛衰記は丹波国五箇庄とする。			〔吉記〕		卷8-37	卷8法住寺 合戦	卷34 木曾内裏 守護	
139			12/10	義仲、左馬頭を辞す。 左馬頭(さまのかみ)：朝廷の馬及び諸国の牧の馬を掌る長官。			〔玉葉〕 〔吉記〕					
140			12月?	義仲、松殿基房の娘を娶り、基房の婿となる。 *日付未詳。基房娘の名は『平家物語』に記されていないが、伊子とする説がある。						卷8法住寺 合戦	卷34 信西相 明雲言	

	西暦	和暦	月日	出来事	義仲年齢	巴年齢	出典					
							日記・文書等	『吾妻鏡』	平家物語諸本			
									延慶本	覚一本	源平盛衰記	
141	1183	寿永2年	12/10	義仲、叙従五位上。	30	27		『吾妻鏡』 寿永3年1/20条				
142			12/15	院庁下文を鎮守府將軍藤原秀衡に下し、源頼朝を討たせようとする。 <small>藤原秀衡（ふじわらのひでひら）：平泉藤原氏。清衡（きよひら）の孫、基衡（もとひら）の子。陸奥守（むつのかみ）に任ぜられて、平泉（ひらいずみ）を拠点に権勢をほこった。</small>			『古記』					
143			12/23	義仲、後白河の西海臨幸を望む。			『古記』					
144			12/28	義仲、丹後の某に下知状を発給する。			前田本 『玉燭宝典』 紙背文書 10巻1号 ※別添1参照					
145			12月頃	義仲、但馬の平季広・季長に狼藉停止の下文を発給する。 <small>但馬（たじま）：現在の兵庫県北部。</small>			高山寺文書 （『平安道文』 8巻4166号） ※別添1参照					
146	1184	元暦元年 （改元は4/16）	1/6	義仲、叙従四位下。	31	28		『吾妻鏡』 1/20条				
147			1/6	義仲、源範頼・義経の軍が美濃・伊勢に到着したという知らせを受け、兵を派遣し防ごうとする。			『玉葉』 『百練抄』 1/8条	巻9-3	巻9 生ずきの 沙汰	巻34義仲 將軍宣		
148			1/10 又は 11	義仲、征東大將軍となる。 *就任日を、『吾妻鏡』は10日、『百練抄』・延慶本は11日とするが、官職を征夷大將軍とする。源平盛衰記は11日に征夷將軍になったとし、覚一本は寿永2年8/10に朝日の將軍になったとする。			『百練抄』1/11条 『玉葉』1/15条 『三槐荒涼拔書要』 所引『山槐記』 建久3年7/9条 ※別添1参照	巻9-4	巻8名虎	巻34義仲 將軍宣		
149			1/10	義仲が明暁、後白河を連れ、北陸へ向かおうとしているとの噂がある。			『玉葉』					
150			1/13	義仲、関東への下向の有無、七八度変わる。遂に下向せず。			『玉葉』					
151			1/16	源範頼、義経等の軍、近江に着く。義仲、行家を追う。			『玉葉』				巻34東国 兵馬汰	
152			1/19	義仲、行家を討つため、兵を西へ向かわせる。志太義広は大將軍として宇治田原を防ぐ。 <small>志太義広（しだよしひろ）：源為義の子。義仲の叔父。</small>			『玉葉』	巻9-5			巻34義仲 將軍宣	
153			1/20	源範頼・義経の軍、勢多・宇治で義仲軍を破り京都へ入る。◎宇治川の戦い  <small>宇治川先陣 〈所在地〉京都府宇治市</small>			『玉葉』 『百練抄』	『吾妻鏡』	巻9-7	巻9 宇治川 先陣	巻35 高綱渡 宇治河	
154			1/20	義仲、松殿基房の娘と別れて都を出ることにする。				巻9-7			巻35木曾 惜貴女遣	
155			1/20	越後中太能景、津波田三郎、義仲を諷めるために自害し、義仲、今日限りの戦いを決心する。							巻35木曾 惜貴女遣	
156			1/20	義仲に付き従う根井行親ら討死する。							巻35木曾 惜貴女遣	
157			1/20	義仲勢、後白河を奪えず、大軍と戦い激減する。							巻35 東使戦 木曾	
158			1/20	畠山重忠、義仲ら23騎と三条河原で川を隔てて射合う。義仲ら引き退く。							巻35 巴関東 下向	
159			1/20	義仲、巴・山吹という女性を連れていた。山吹は病のため都に残った。巴は、最後の5騎まで戦ったが、義仲に促され東国の方へ逃れた。 *延慶本には山吹の記述はない。また、巴（『頼絵』）の行方知れずとする。				巻9-9	巻9 木曾最期			
160			1/20	巴、義仲と別れて信濃に下向する。のち、鎌倉に召し出され、和田義盛が申し受けて結婚。朝比奈義秀をうむ。								巻35 巴関東 下向

	西暦	和暦	月日	出来事	義仲年齢	巴年齢	出典						
							日記・文書等	『吾妻鏡』	平家物語諸本				
									延慶本	覚一本	源平盛衰記		
161	1184	元暦元年 (改元は4/16)	1/20	<p>近江国栗津において、義仲、今井兼平ら討ち取られる。</p> <p>⑩ 栗津原の戦い</p> <p>近江国(おみのくに)：現在の滋賀県。</p> <p>*覚一本では1月21日の日没頃とする。</p>		31	28	『玉葉』	『吾妻鏡』	巻9-9	巻9木曾最期	巻35栗津合戦	
			1/21	<p>樋口兼光、義仲の使いとして石川判官代を討つため河内国にいたが、石川が逃げたため、帰京してきたところを義経の家人らと戦い、生捕される。</p> <p>*平家物語諸本は行家を討つためとする。</p>		-			『吾妻鏡』	巻9-10	巻9樋口被討罰	巻35栗津合戦	
			1/26	<p>義仲及び今井兼平、根井行親等、梟首。</p> <p>梟首(きょうしゅ)：打首にした罪人の首を木にかけてさらすこと。さらし首。</p>					『吾妻鏡』	巻9-12	巻9樋口被討罰	巻35木曾頭被渡	
			1/27	<p>源範頼、義経等の使、鎌倉に至り、義仲を討討したことを報告。</p> <p>*覚一本は1/24とする。</p>					『吾妻鏡』		巻9樋口被討罰		
			2/2	<p>樋口兼光、梟首。</p> <p>*覚一本は1/25とする。</p>					『吾妻鏡』	巻9-12	巻9樋口被討罰	巻35兼光被誅	
			2/7	<p>⑪ 一ノ谷の戦い</p> <p>一ノ谷の戦い：源義経・範頼軍が、平氏軍を破った戦い。『平家物語』にみえる義経の鶴越(ひよりこえ)の逆落しとよばれる奇襲戦法が有名。</p>					『吾妻鏡』	巻9-20	巻9坂落	巻37馬因縁	
			2/19	<p>⑫ 屋島の戦い</p> <p>屋島の戦い：一ノ谷の戦いに敗れて屋島に逃れた平氏は、この戦いで源義経らに再び敗れ、長門の壇ノ浦に逃れた。</p>					『吾妻鏡』	巻11-18	巻11勝浦志度合戦	巻42屋島合戦	
			4/21	<p>義仲の子義高、鎌倉を脱出する。</p>					『吾妻鏡』				
169			4/26	<p>義高、武蔵国入間河原で討たれる。</p>					『吾妻鏡』				
				<p>影隠し地蔵/ 義高が追っ手から隠れるために一旦身を隠したと伝わる地蔵 (所在地) 埼玉県狭山市</p>									
170			5/1	<p>頼朝、義高の残党を討つ。</p>				『吾妻鏡』					
171	1185	文治元年 (改元は8/14)	3/3	<p>義仲の妹(北条政子猶子)、美濃より上洛。妹を担ぐ者達が権門の所領を掠奪しているのを、頼朝が、近藤国平等に命じて停止させる。</p> <p>猶子(ゆうし)：兄弟や親族の子などを自分の子として迎え入れたもの。義子。 権門(けんもん)：官位が高く権勢がある家。 近藤国平(こんどうくにひら)：源頼朝の旗上げ当初からの御家人。</p>			29		『吾妻鏡』				
			3/24	<p>平家、壇ノ浦に滅亡。⑬ 壇ノ浦の戦い</p> <p>壇ノ浦の戦い：長門の壇ノ浦で源範頼・義経が平家に勝利。平家滅亡。</p>					『吾妻鏡』	巻11-5	巻11先帝身投	巻43二位禅尼入海	
			5/1	<p>頼朝の招きにより、義仲の妹宮菊が、鎌倉に到る。頼朝、宮菊に美濃国遠山庄内の一村を与える。</p>					『吾妻鏡』				
			11/12	<p>以仁王の遺児北陸宮が、頼朝の沙汰により上洛。</p>					『玉葉』 11/14条				
175	1195	建久6年	10/13	<p>幕府、箱根山別当に命じて、義仲の旧臣信救(覚明)が山外に出ることを禁ず。</p> <p>覚明：義仲の右筆(文事にたずさわり、その能力により仕えた者)だった。義仲の没後、本名の信救得業(しんぎゅうとくごう)を名乗り箱根山に住した。</p>				39		『吾妻鏡』			
				<p>箱根神社/覚明が潜伏していたと伝わる (所在地) 神奈川県箱根町</p>									
176	1213	建保元年 (改元は12/6)	5/10	<p>巴、和田合戦で朝比奈三郎義秀が没した後、越中の石黒のもとに下向し、出家する。</p>				57				巻35巴関東下向	
177	1247	宝治元年		<p>巴、死去。91歳で没。</p>					91				巻35巴関東下向
				<p>巴塚の松/巴の遺言で植えられたと伝わる樹齢約750年の松 (所在地) 富山県南砺市</p>									

参考文献：『源平盛衰記年表』三弥井書店、『延慶本平家物語の世界』汲古書院

監修：長村 祥知
制作：富山県総合政策局企画調整室
〒930-8501 富山市新総曲輪1-7